

県政世論調査結果の結果 (2021 年度 第1回)

地球温暖化対策部分の抜粋

1 調査概要

調査地域 愛知県

調査対象 県内居住の 18歳以上の男女

抽出方法 層化二段無作為抽出法

調査方法 郵送法

調査期間 2021年7月1日から7月20日まで

標本数 3,000人

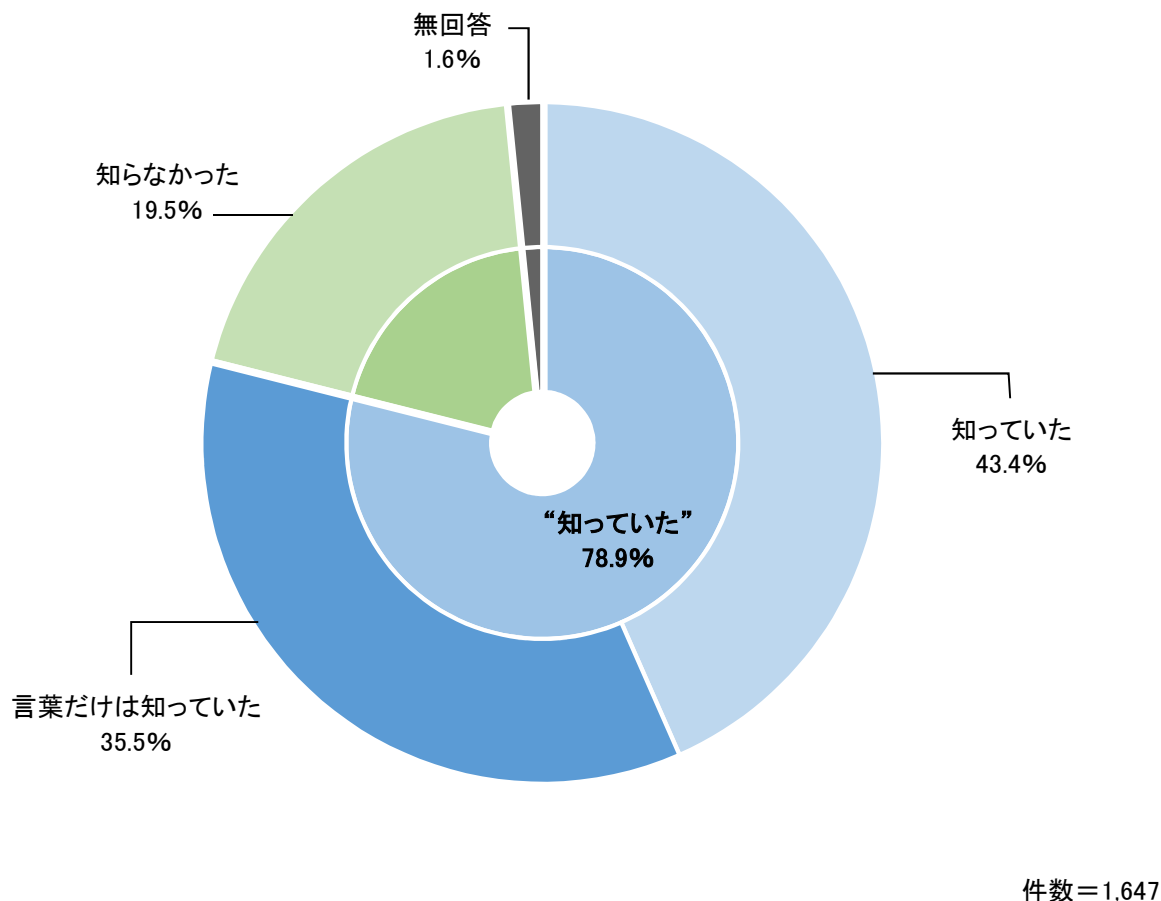
回収数 1,647人(54.9%)

2 地球温暖化対策等について

(1)「脱炭素社会」の認知度

“知っていた”が 78.9%

問1 「脱炭素社会」とは、人の活動による二酸化炭素を始めとする温室効果ガスの排出量と、森林などによる吸収量が等しくなり、排出実質ゼロとなる社会のことです。
あなたは、「脱炭素社会」について知っていましたか。【〇は1つ】



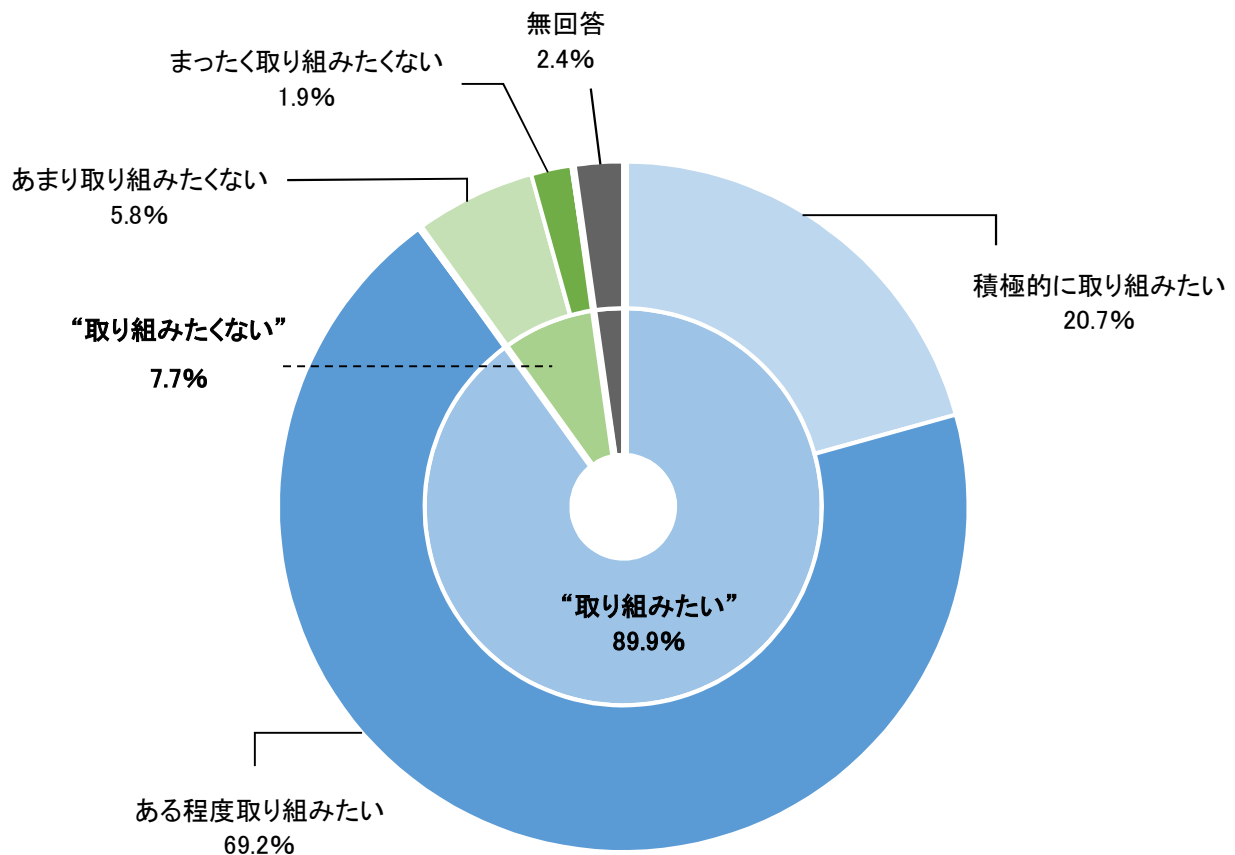
「脱炭素社会」の認知度について、「知っていた」(43.4%)と「言葉だけは知っていた」(35.5%)を合わせた“知っていた”と答えた人の割合は 78.9%となっている。

一方で、「知らなかった」と答えた人の割合は 19.5%となっている。

(2)「脱炭素社会」実現に向けた取組への意欲

“取り組みたい”が 89.9%

問2 あなたは、「脱炭素社会」の実現に向け、一人一人が二酸化炭素などの排出を減らす取組について、どの程度取り組みたいですか。【〇は1つ】



件数=1,647

「脱炭素社会」実現に向けた取組への意欲について、「積極的に取り組みたい」(20.7%)と「ある程度取り組みたい」(69.2%)を合わせた“取り組みたい”と答えた人の割合は 89.9%となっている。

一方で、「あまり取り組みたくない」(5.8%)と「まったく取り組みたくない」(1.9%)を合わせた“取り組みたくない”と答えた人の割合は 7.7%となっている。

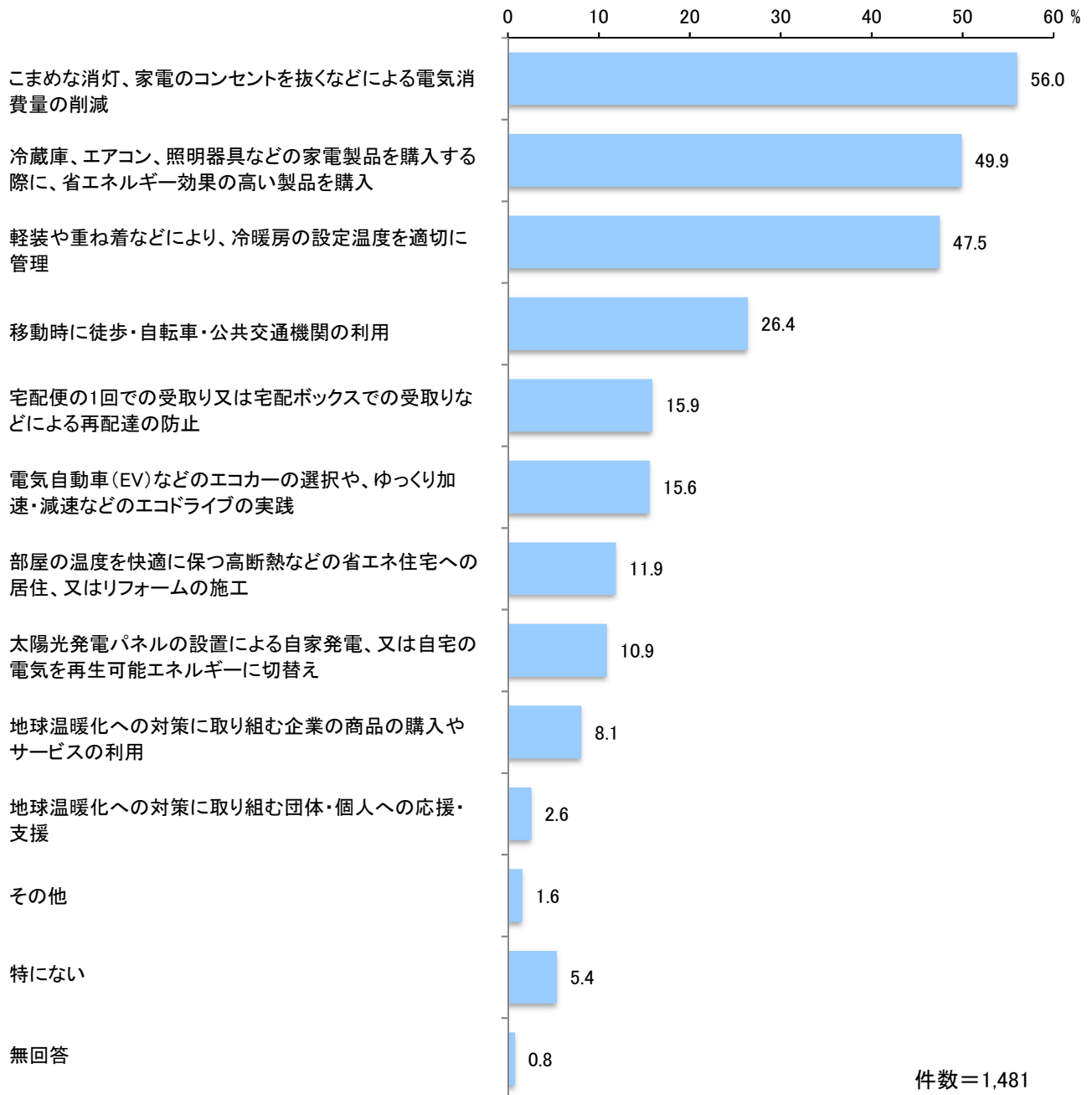
(3)「脱炭素社会」実現に向けて取り組んでいること

「こまめな消灯、家電のコンセントを抜くなどによる電気消費量の削減」が 56.0%

問3 《問13で1又は2の“取り組みたい”と答えた方にお聞きします。》

「脱炭素社会」の実現に向け、日常生活の中で、現在、取り組んでいることはありますか。

【〇は複数可】

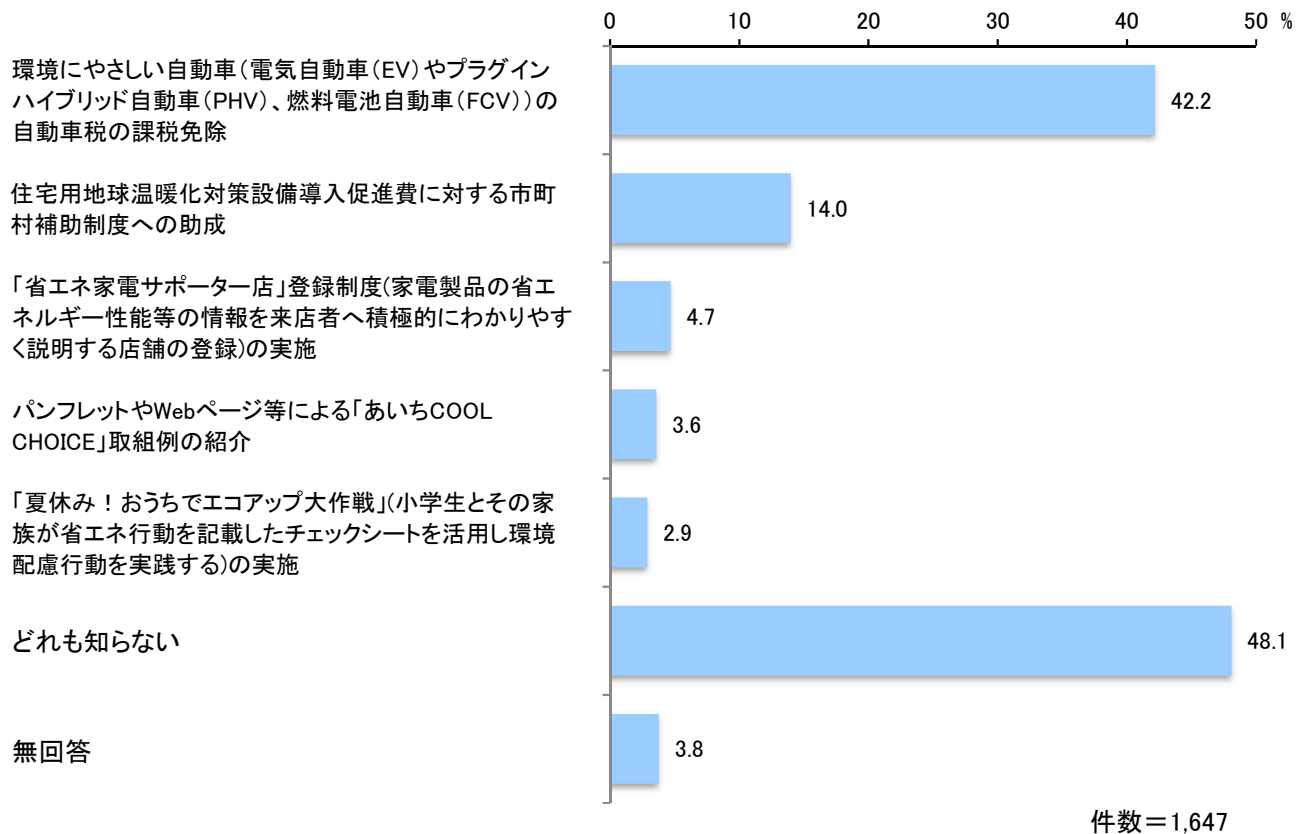


「脱炭素社会」実現に向けて取り組んでいることについて、「こまめな消灯、家電のコンセントを抜くなどによる電気消費量の削減」と答えた人の割合が 56.0%と最も高く、続いて「冷蔵庫、エアコン、照明器具などの家電製品を購入する際に、省エネルギー効果の高い製品を購入」(49.9%)、「軽装や重ね着などにより、冷暖房の設定温度を適切に管理」(47.5%)の順となっている。

(4)「あいち COOL CHOICE」県民運動について知っている取組

「環境にやさしい自動車(電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド自動車(PHV)、燃料電池自動車(FCV))の自動車税の課税免除」が 42.2%

問 4 地球温暖化を防止するためには、家庭においても、一人一人が身近にできることから実践することが大切です。愛知県では、家庭での温暖化対策として、「あいち COOL CHOICE (クールチョイス)」県民運動を推進しています。「あいち COOL CHOICE」県民運動を推進するために愛知県が行っている取組のうち、あなたが知っているものは何ですか。【〇は複数可】



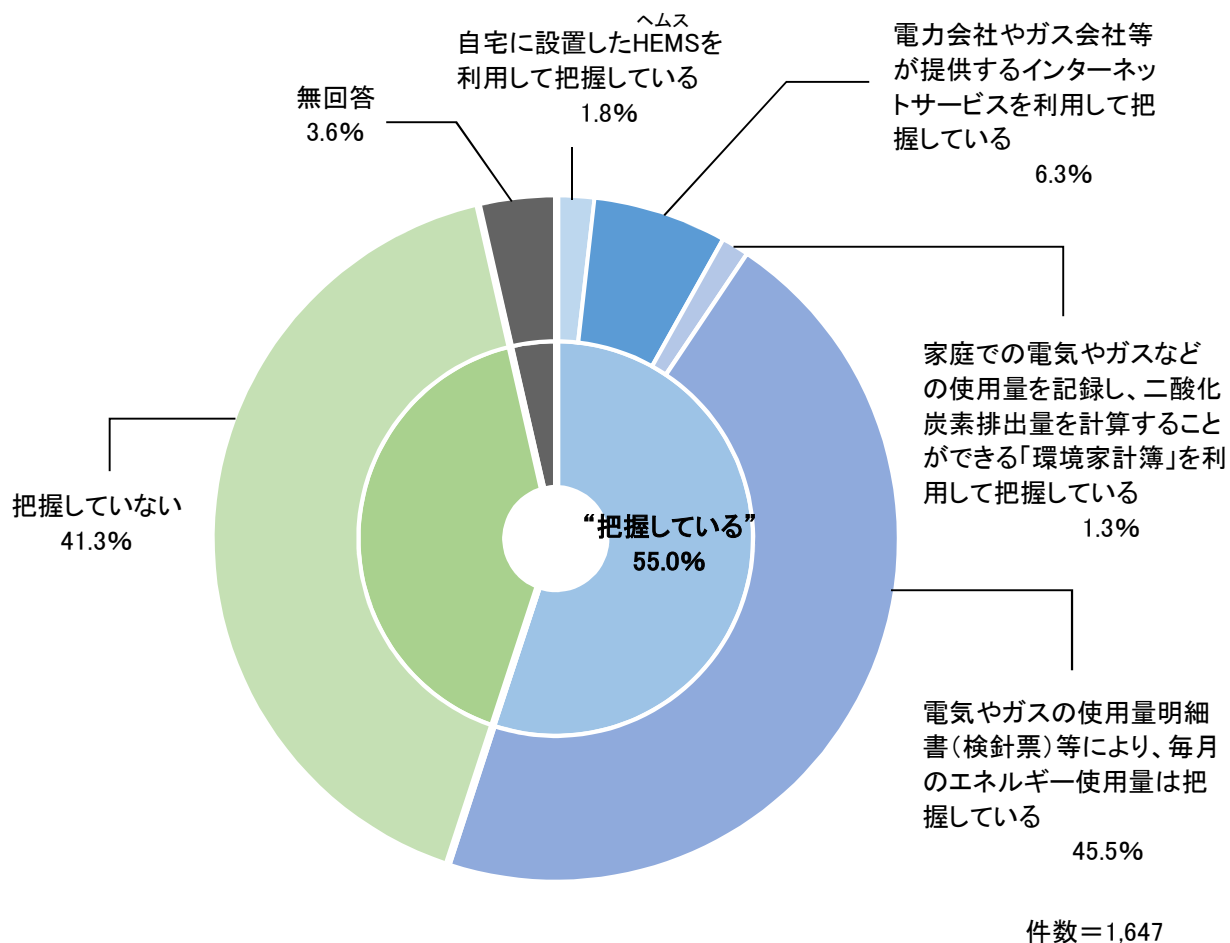
「あいち COOL CHOICE」県民運動の知っている取組について、「環境にやさしい自動車(電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド自動車(PHV)、燃料電池自動車(FCV))の自動車税の課税免除」と答えた人の割合が 42.2%と最も高く、続いて「住宅用地球温暖化対策設備導入促進費に対する市町村補助制度への助成」(14.0%)、「『省エネ家電サポーター店』登録制度(家電製品の省エネルギー性能等の情報を来店者へ積極的にわかりやすく説明する店舗の登録)の実施」(4.7%)の順となっている。

一方で、「どれも知らない」と答えた人の割合は 48.1%となっている。

(5) 家庭でのエネルギー使用量等の把握状況

“把握している”が 55.0%

問 5 地球温暖化問題の解決に向けては、一人一人が日々の生活の中で、エネルギー使用量を減らすことが不可欠です。あなたは、ご家庭でのエネルギー使用量（主に電気とガス）や二酸化炭素排出量をどのような方法で把握していますか。【〇は1つ】



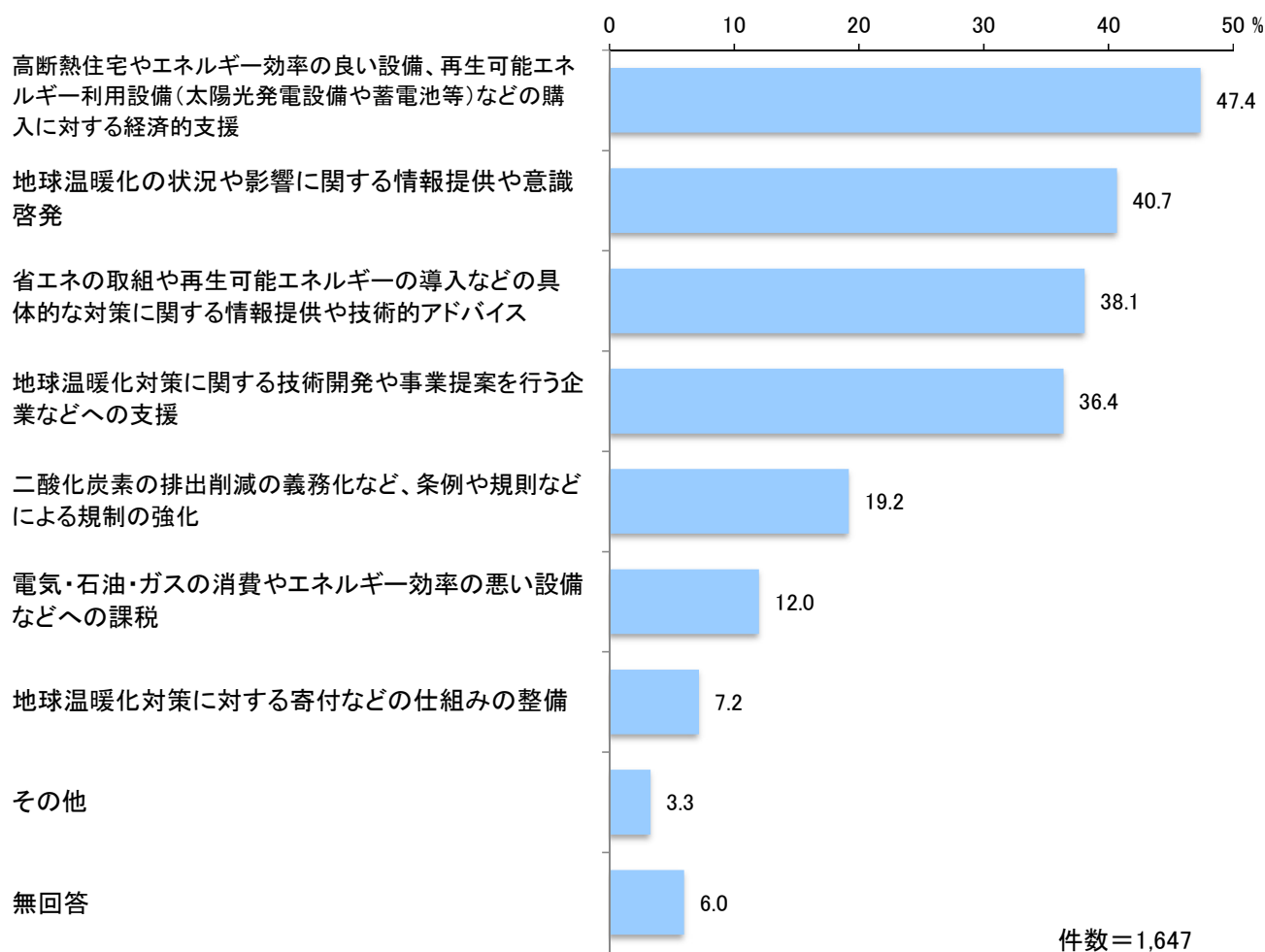
家庭でのエネルギー使用量等の把握状況について、「自宅に設置した HEMS を利用して把握している」(1.8%)と「電力会社やガス会社等が提供するインターネットサービスを利用して把握している」(6.3%)と「家庭での電気やガスなどの使用量を記録し、二酸化炭素排出量を計算することができる『環境家計簿』を利用して把握している」(1.3%)と「電気やガスの使用量明細書(検針票)等により、毎月のエネルギー使用量は把握している」(45.5%)を合わせた“把握している”と答えた人の割合は 55.0%となっている。

一方で、「把握していない」と答えた人の割合は 41.3%となっている。

(6) 地球温暖化問題を解決するために愛知県が進めるべき取組

「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、再生可能エネルギー利用設備(太陽光発電設備や蓄電池等)などの購入に対する経済的支援」が 47.4%

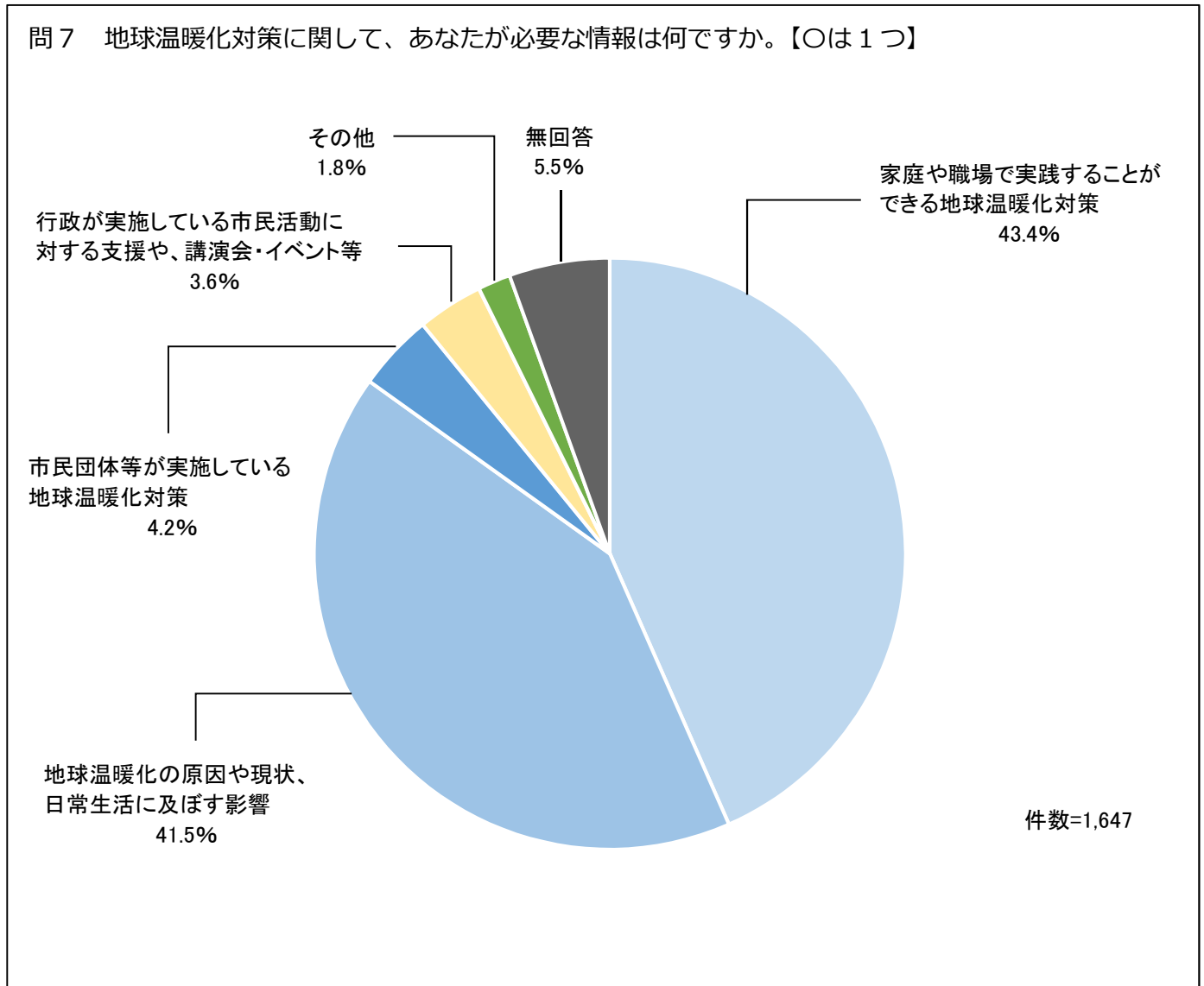
問6 地球温暖化問題を解決するために、愛知県はどのような取組を進めるべきだと思いますか。
【〇は3つまで】



地球温暖化問題を解決するために愛知県が進めるべき取組について、「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、再生可能エネルギー利用設備(太陽光発電設備や蓄電池等)などの購入に対する経済的支援」と答えた人の割合が 47.4%と最も高く、続いて「地球温暖化の状況や影響に関する情報提供や意識啓発」(40.7%)、「省エネの取組や再生可能エネルギーの導入などの具体的な対策に関する情報提供や技術的アドバイス」(38.1%)の順となっている。

(7)地球温暖化対策に必要な情報

「家庭や職場で実践することができる地球温暖化対策」が 43.4%



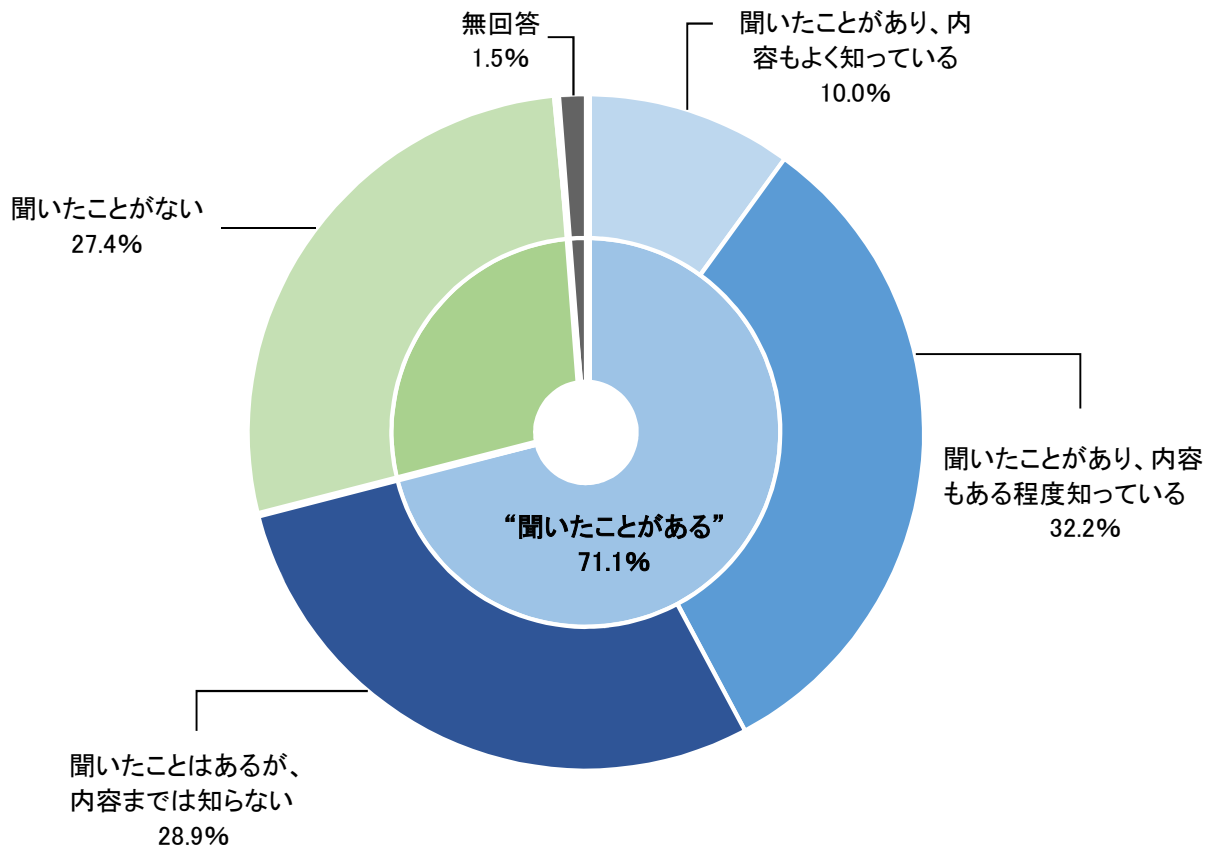
地球温暖化対策に必要な情報について、「家庭や職場で実践することができる地球温暖化対策」と答えた人の割合が 43.4%と最も高く、続いて「地球温暖化の原因や現状、日常生活に及ぼす影響」(41.5%)、「市民団体等が実施している地球温暖化対策」(4.2%)の順となっている。

参考 「SDGs(持続可能な開発目標)」について

(1)「SDGs」の認知度

“聞いたことがある”が 71.1%

問1 あなたは、「SDGs」という言葉を聞いたことがありますか。【〇は1つ】



件数=1,647

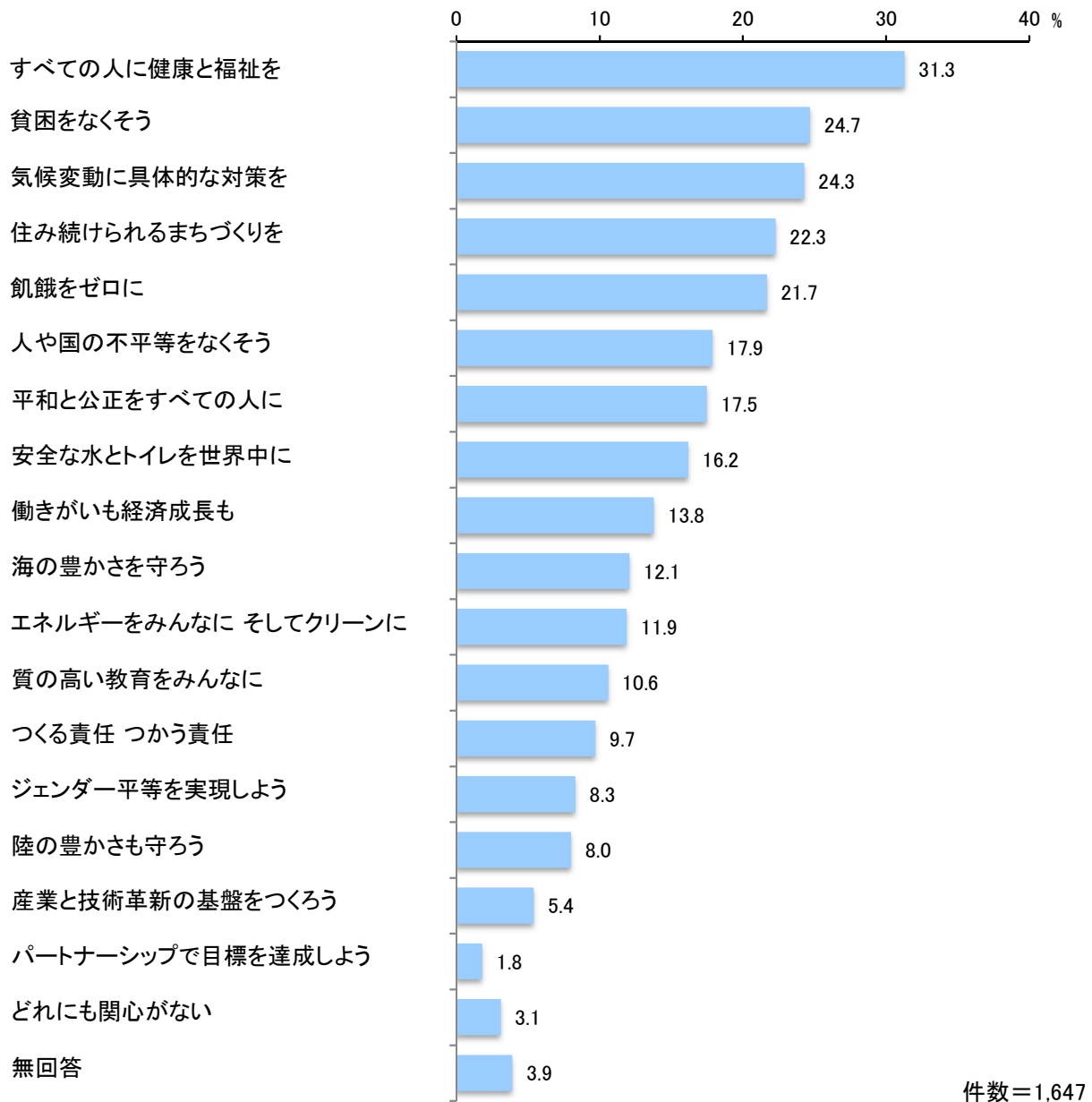
「SDGs」の認知度について、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」(10.0%)と「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」(32.2%)と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(28.9%)を合わせた“聞いたことがある”と答えた人の割合は 71.1%となっている。

一方で、「聞いたことがない」と答えた人の割合は 27.4%となっている。

(2) 関心のあるゴール(目標)

「すべての人に健康と福祉を」が 31.3%

問2 「SDGs」には、右図※のとおり、世界で達成すべきものとして、17のゴールがあります。これらのうち、あなたが関心のあるゴールは何ですか。【〇は3つまで】



関心のあるゴール(目標)について、「すべての人に健康と福祉を」と答えた人の割合が 31.3%と最も高く、続いて「貧困をなくそう」(24.7%)、「気候変動に具体的な対策を」(24.3%)の順となっている。